

介護ロボット普及推進の 取り組みについて 【資料①】

令和3年1月12日(火)

公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会
ロボット・ICT推進課 得永 真人

法人概要

名称	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会	
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階 TEL:045-671-0294 FAX:045-671-0295	
目的	高齢者や障害者が心身の健康を保持し、自立した日常生活を営むことができるよう、地域福祉サービスの振興と質の向上を図るとともに、子育て支援を推進することにより地域福祉の増進に寄与することを目的とする。	
設立許可年月日	平成24年4月1日 (平成9年3月31日に設立した社団法人かながわ福祉サービス振興会から上の期日に公益社団法人に移行)	
会員数	227社 (正会員:56、 賛助会員:137、 県市町村会員:34) (令和2年10月1日現在)	

事業内容

- 介護・福祉サービスに関する情報の提供
- 介護・福祉サービス評価の推進
- 介護・福祉に関する各種相談
- 介護・福祉人材の確保及び育成
- 介護・福祉に関する調査研究
- 介護ロボットの普及推進
- 指定情報公表センターの業務
- 指定調査機関の業務
- 行政機関その他の関係団体との連携並びに介護・福祉の振興施策等に関する提言
- 指定市町村事務受託法人にかかる要介護認定業務
- 高齢者及び障害者の社会参加並びに就労支援に関すること
- その他公益目的を達成するために必要な事業



本題の前に！

介護現場を取り巻く現状について

2025年
問題

人口減少

人材不足

育成不足

サービスの質の低下



介護現場を取り巻く現状について

2025年問題

2040年問題

人口減少

就業人口不足

人材育成不足

サービス低下

少子高齢化

**特に介護・障がい・子育て
の現場で働く人材が不足して
いる。**



介護関連職種における有効求人倍率

	看護師等	医療技術者	介護職
2017年度	2.33	2.94	3.72
2018年度	2.59	3.36	4.47
2019年度	2.25	3.16	4.31

【出典】厚生労働省 一般職業紹介状況ほか
(平成30年9月)



人材の確保が急務！

国や自治体も

対策を講じている！

総合的な介護人材確保対策

処遇改善

環境整備

多様な人材

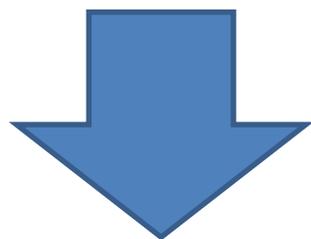
魅力発信

生産性向上



①多様な人材の確保・育成

入門的な知識・技術の習得
を目指す研修をおこなう。



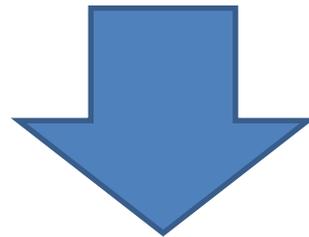
すでに実施

未経験者への不安払しょく

対策を講じている

②生産性向上のために

ロボット、ICT活用推進の加速化を支援する。



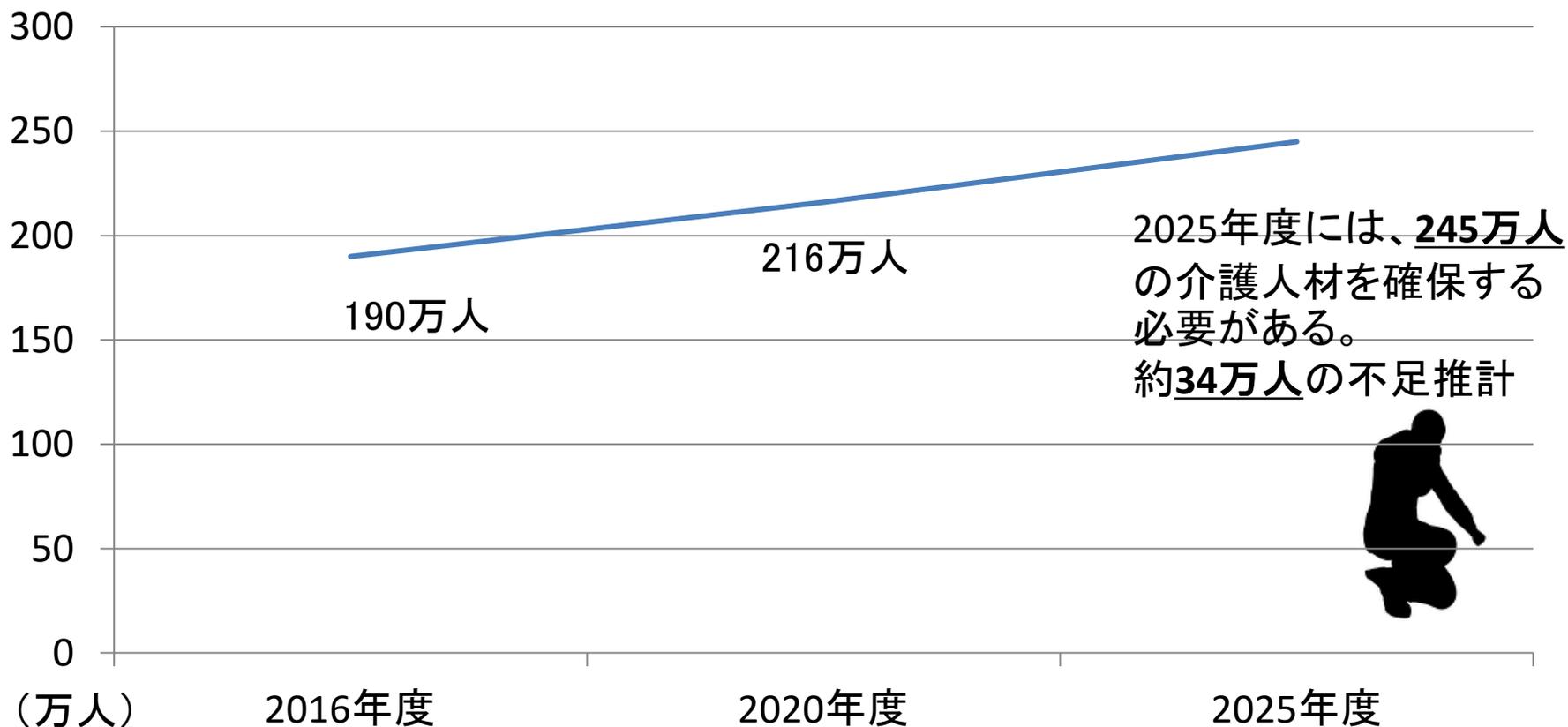
すでに実施

ガイドラインの作成

対策を講じている

しかし実際は・・・

第7期介護保険事業計画に基づく介護人材の必要数



・・・目次・・・

1. 介護ロボット普及推進事業について

2. 協議会、活用研究会の設立とその歩みについて

1. 介護ロボット 普及推進事業について

介護ロボット普及推進事業の目的

目的1

介護福祉分野が抱える様々な問題を解決したい！

介護される側の問題解決

例：自立・身体動作支援

介護する側の問題解決

例：介護の負担軽減、人手不足の解消

目的2

新(ロボット関連)産業を育成したい！

県内の産業育成



後の雇用機会の増大などにも繋がる！



経済発展に！

介護分野の問題解決をして、新産業の育成にも繋げたい！

かながわ福祉サービス振興会の取り組み①

主な取り組み

1	介護ロボットの 試験導入
2	介護ロボットに関する マーケットリサーチ
3	介護ロボットの 普及推進活動

1. 試験導入＋効果測定(評価)
2. 人材育成

1. アンケート調査
2. 施設に訪問ヒアリング
(導入・活用状況など)

1. 事業説明会の開催
2. シンポジウムの開催

①ロボットの試験導入、②リサーチ、③普及活動が主な取り組み

かながわ福祉サービス振興会の取り組み②

平成22年度～29年度

- ☆ 介護・医療分野ロボット普及推進モデル事業
- ☆ 介護ロボット普及推進事業
- ☆ 介護ロボット普及介護人材育成支援事業
- ☆ ロボット介護推進プロジェクト(経済産業省)
- ☆ 介護ロボット展示・説明会開催事業
- ☆ 神奈川らくらく介護推進機器効果検証事業
- ☆ 介護ロボット導入支援事業
- ☆ 「神奈川らくらく介護宣言」普及推進講習会

かながわ福祉サービス振興会の取り組み③

平成30年度～令和2年度

- ☆ 介護・生活支援ロボット普及推進協議会 設立
(国内ロボット・ICTメーカー約50社、自治体ほか)
- ☆ 介護・生活支援ロボット活用研究会 設立
(神奈川県・東京都・静岡県約25法人、自治体、
県立障がい者施設ほか)
- ☆ 介護ロボット・ICT導入支援事業(神奈川県・横浜市)
- ☆ 神奈川介護ロボットフォーラム(厚生労働省)
- ☆ 介護ロボット展示・説明会開催事業
(神奈川県及び県内各自治体・埼玉県・栃木県・茨城県・
長野県・愛知県ほか)

介護ロボットとは？



介護ロボット＝

「介護サービスを支援する先端機器・システム」の総称

ロボット

経済産業省の定義によると、(1)センサー、(2)知能・制御系、(3)駆動系の要素を持つ機械システムのこと。

国の重点分野(8分野)



移乗介助機器(装着型)



移乗介助機器(非装着型)



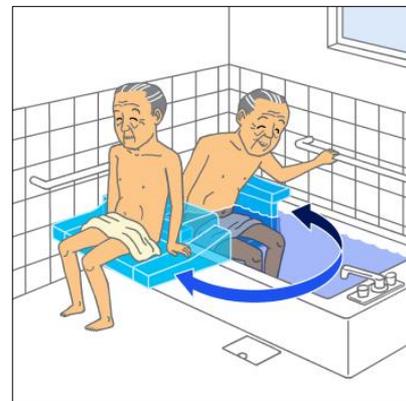
移動支援機器(屋外型)



移動支援機器(屋内型)



排泄支援機器



入浴支援機器

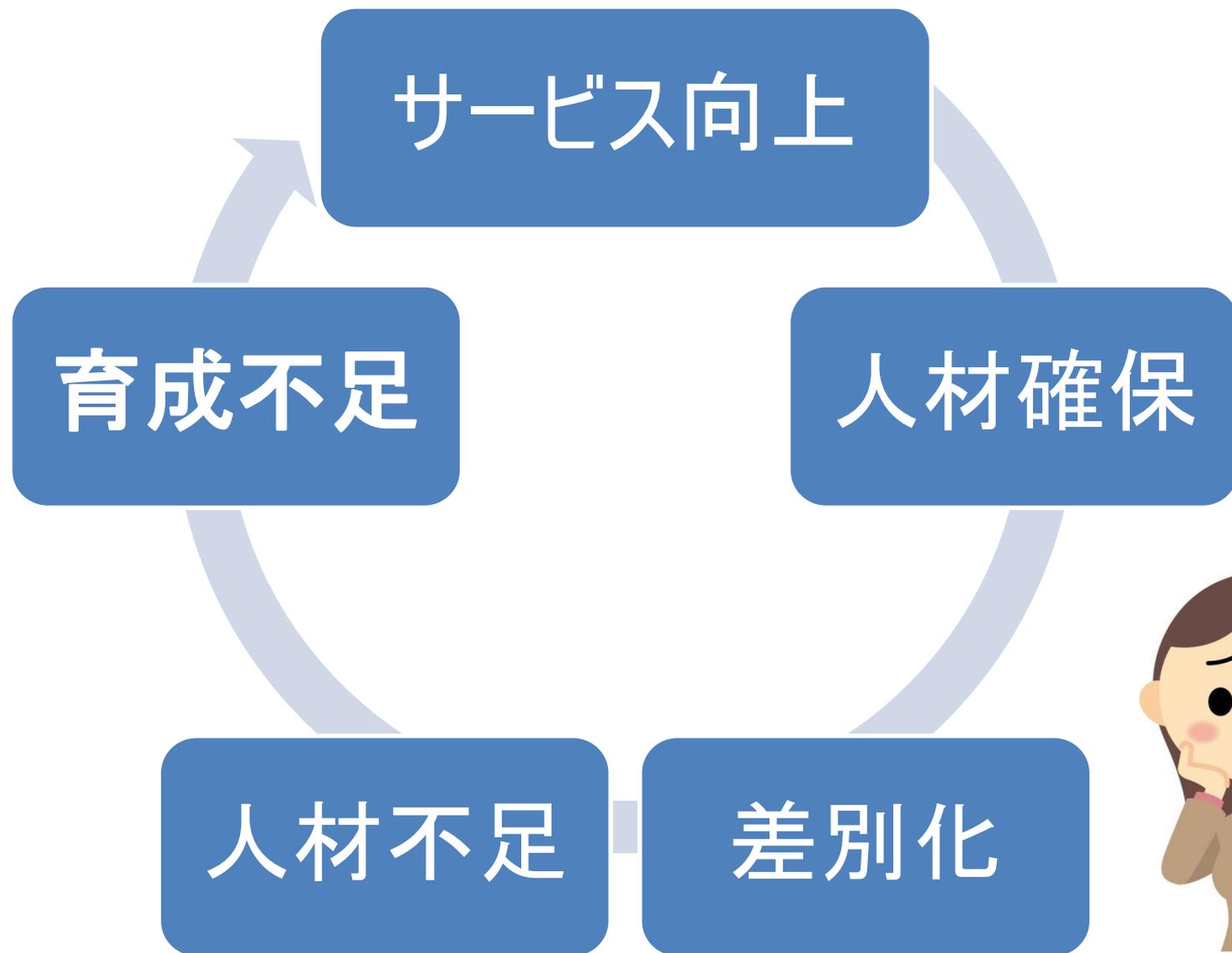


見守り支援機器(介護施設型)



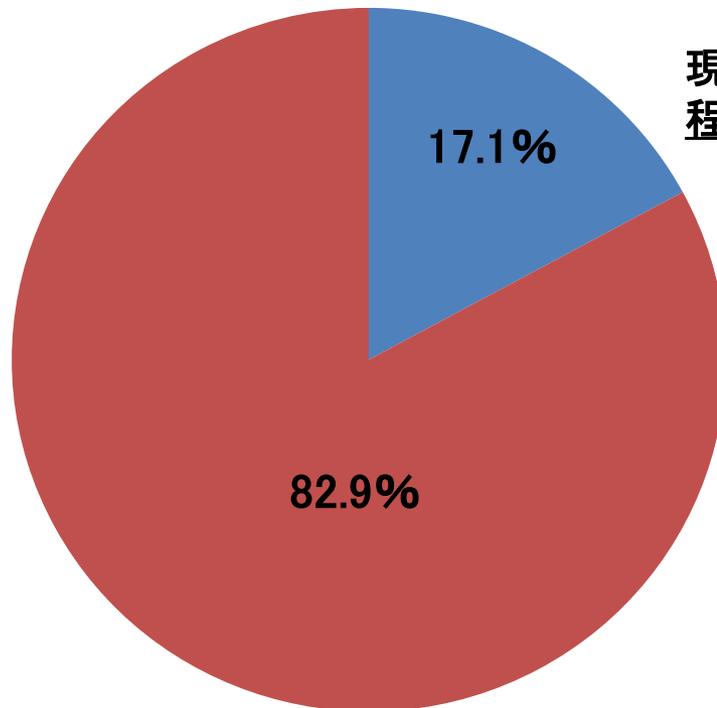
見守り支援機器(在宅介護型)

介護ロボットを導入・活用する目的



介護ロボットの導入について(神奈川県)

	件数	比率
導入している	80件	17.1%
導入していない	387件	82.9%



現状(平成30年度時点)では、全体の2割程度の導入実績に止まっている

- 導入している
- 導入していない

平成30年度
公益社団法人かながわ福祉サービス振興会調べ

介護ロボットを導入しない最大の理由

	件数	比率
価格が高い為	147件	42.1%
費用対効果が見込めない為	50件	14.3%
介護ロボットを扱える人材の育成・体制が不十分である為	44件	12.6%
安全性・信頼性が分からない為	41件	11.7%
準備・操作・片付けに手間がかかる為	14件	4.0%
保管スペースがない為	12件	3.4%
補助金が少額である為	6件	1.7%
その他	35件	10.2%

- ・事業所単体での決定権がない
- ・導入したいロボットが見当たらない
- ・必要性を感じない
- ・人材を確保することに重点を置いている

ロボットの考えられる導入理由と課題

介護業務	導入理由	ロボットでは業務代替が出来ない課題とは！？
見守り支援	<ul style="list-style-type: none">・夜間、緊急時における人手不足・不穏な行動への対応	<ul style="list-style-type: none">・実際に目視で確認をしていない為の安全面の不安
移乗・移動支援	<ul style="list-style-type: none">・腰痛などの肉体的に負担大・日常のあらゆる局面にて発生	<ul style="list-style-type: none">・コミュニケーションが取れない・介助中に異常に気付くことが出来ない
排泄支援	<ul style="list-style-type: none">・利用者の恥ずかしいという心理を気遣う	<ul style="list-style-type: none">・排泄物から健康面のチェックが出来ない
入浴支援	<ul style="list-style-type: none">・滑るなどの安全面を気遣う・利用者の恥ずかしいという心理を気遣う	<ul style="list-style-type: none">・コミュニケーションが取れない・個人毎の体格差、湯温調整が出来ない
食事・服薬支援	<ul style="list-style-type: none">・他の業務と異なり時間をずらすことが出来ない	<ul style="list-style-type: none">・ロボットでは利用者ごとに異なる対応が出来ない
コミュニケーション支援	<ul style="list-style-type: none">・個別ケアにおける人手不足・レクリエーション等の対応	<ul style="list-style-type: none">・ロボットだけでは人手不足の解消までは至らない
介護業務支援	<ul style="list-style-type: none">・介護記録等の対応への負担大	<ul style="list-style-type: none">・見守り、移動移乗、排泄など様々な分野に関わる為、集約が難しい

介護ロボットのニーズはどこに？



2. 協議会、活用研究会の設立 とその歩みについて

これからは「一億総介護」

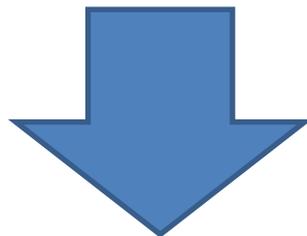


生産人口の減少により、
介護職に限らず労働者自体
が減少傾向にある。

高齢者は増加傾向にある
為、介護人材の不足が深刻
である。

介護ロボット・ICTの活用は
福祉の現場では不可欠。

現場スタッフの理解と、適切な使用方法を習得することが
大変重要である。



ロボット・ICTの導入・活用の
プロセスを理解し、事業所と
連携し実践、支援する。

介護・生活支援ロボットを取り巻く現状

介護現場で生産性を高め、人材の確保・育成を図る為にロボットは必要である。



提供側が、現場が求めている介護・生活支援ロボットを提供できているとは言い難い。

施設側が、介護・生活支援ロボットを扱える人材の育成・体制づくりが不十分。



ミスマッチが起こっている



提供側・使用側 双方の課題とは！？

提供側（メーカー等）

好事例や有効なエビデンスは取得しているものの、思うような成果が得られていない（販売実績等）…

介護事業所との接点が限られている。ロボット活用におけるメリットや有効な活用法などの案内が出来ていない…

費用に見合ったロボット活用法や成果についての事例の提供がまだまだ不十分である。

使用側（法人・施設等）

ロボットの効果的な活用方法について事業所内の情報共有ができていない。

ロボットを活用する人材育成や組織の体制づくり、教育が不十分である。

ロボットの活用に際して、介護現場で活用することに未だに抵抗がある。

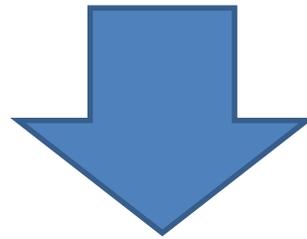


課題を解決する
ためには・・・



現場で本当に受け入れられるか、使用感や使い勝手、利用者や家族の意見も反映した実証実験、ヒアリングが必要…

ロボットメーカー×事業所の率直な意見交換、特にサービスの質の向上の為に役立つ内容が不可欠…



情報提供と人材育成を通じて、現場において質の高いサービス提供を目指す。

これまで

課題解決に向けて

取り組んできたこと

とは！？

介護・生活支援ロボット 普及推進協議会設立へ

介護・生活支援ロボット開発メーカー側
が、介護事業所のニーズを的確に把握し、
現場のケアにとって本当に必要な介護・生活支
援ロボットの提供、質の高いサービスを提供
できる環境づくり、介護・生活支援ロボット
の活用による人材の確保・育成を目指
す。



【設立主旨】

介護や福祉の現場では、人材の確保や育成、サービスの質の向上が重要な課題となっており、その対応策の一環として、介護・生活支援ロボットの活用が一般化している。

一方で、介護・生活支援ロボットの開発メーカー側、実際に介護・生活支援ロボットを活用する施設側におけるミスマッチが生じることが課題となっている。その為には、両者への正しい情報提供が不可欠である。

介護や福祉現場で生産性を高め、介護人材の確保及び育成を図る為の介護・生活支援ロボットの導入支援は今後もニーズが高まることが予想される。介護・生活支援ロボットの開発メーカー及び販売代理店による、開発や周知、販売における情報交換や意見交換、介護事業者側とのマッチングなどを目的とした「介護・生活支援ロボット普及推進協議会」を設立する。

併せて、実際に介護・生活支援ロボットの導入や活用に関して、より良い事例収集や検討などを行う拠点として参画する法人・事業所(拠点)によって構成される「介護・生活支援ロボット活用研究会」以下、研究会を設立する。

【介護・生活支援ロボット普及推進協議会】

- 委員:52社(令和3年1月12日現在)
- 自治体オブザーバー(神奈川県・横浜市・川崎市・相模原市・藤沢市・湘南産業振興財団・相模原商工会議所ほか)
- 民間アドバイザー(3団体)

【介護・生活支援ロボット活用研究会】

- 委員:25法人(令和3年1月12日現在)
- 自治体オブザーバー(神奈川県)

おもな活動内容について①

主な活動内容について(活動の一部となります)

- 1) 介護・生活支援ロボット活用研究会との連携により
介護・生活支援ロボットメーカー側及び介護事業所側
へ情報提供及び、双方にて意見交換を行う。

介護・生活支援ロボット普及推進協議会

×

介護・生活支援ロボット活用研究会

- ◆事前にプレゼンテーションを行うメーカーより発表資料を提供、活用研究会の委員へ事前に情報提供を行う(実機を活用している施設内でのプレゼン、ディスカッションとなる)
 - ◆協議会委員より、介護・生活支援ロボットの機種についてのプレゼンテーションを行う
 - ◆プレゼンテーションの内容について、介護・生活支援ロボットについての質疑応答(メーカー側×施設側)を実施、機種についての質問や率直な意見、開発や販売、周知に役立つ建設的な意見交換となる
- ※協議会委員5～6社×活用研究会委員5～6名を1グループとして実施

おもな活動内容について②

主な活動内容について(活動の一部となります)

- 2) 介護・生活支援ロボット活用研究会での実証実験を通じて得られた結果についてヒアリング、分析を行う。活用事例の収集・蓄積を図り、より良い活用法などをフィードバック。

介護・生活支援ロボット普及推進協議会

×

介護・生活支援ロボット活用研究会

- ◆協議会委員 × 活用研究会委員 × 事務局の3者が、実証実験のスケジュールや内容について事前協議を行う
- ◆実証実験終了時に事務局より使用した職員からのヒアリング、シートの作成を行い、専門機関への分析依頼を行う
- ◆ロボットのより良い周知法や活用法、今後の開発等における示唆など、専門機関からの回答については協議会委員へフィードバックを行う(半期ごと、年度末)

おもな活動内容について③

主な活動内容について(活動の一部となります)

- 3) 介護・生活支援ロボットの活用ができる人材の育成・体制づくりを支援する。

介護・生活支援ロボット普及推進協議会

×

介護・生活支援ロボット活用研究会

◆介護事業所における「介護・生活支援ロボット」の活用できる人材の育成や体制づくりについて、協議会及び活用研究会の助言を受けながら、実際の事業所へ赴き、支援を行う

◆具体的な支援内容としては…

- ①事業所における現状の把握
- ②導入ロボットへの助言(すでに導入されている場合もある)
- ③ロボットの活用についての体制づくりの助言
- ④メーカー主催の内部研修の企画
- ⑤使用についてのヒアリングや軌道修正など
- ⑥振り返り…
- ⑦補助金等の活用アドバイス…

おもな活動内容について④

主な活動内容について(活動の一部となります)

- 4) 「介護・生活支援ロボット普及推進協議会」に参加をしているメーカーの機器について、関連機関での展示を実施。その他に、各自治体や職能団体等の催事における展示棟を行い、普及啓発をはかる。

介護・生活支援ロボット普及推進協議会

×

介護・生活支援ロボット活用研究会

- ◆実績としては、神奈川県内をはじめ、複数の自治体において展示会やフォーラムへの出展を積極的に行っている。



おもな活動内容について⑤

主な活動内容について(活動の一部となります)

- 5) 「介護・生活支援ロボット普及推進協議会」において、認証制度を導入し、安心・安全かつ信頼のおける介護・生活支援ロボットメーカーと、導入・活用を目指している介護事業所との橋渡しを行う。

介護・生活支援ロボット普及推進協議会

×

介護・生活支援ロボット活用研究会

◆認証審査基準・ガイドラインの策定を行い、次年度以降の本格稼働を目標に、モデル事業を実証済み。

「介護・生活支援ロボット認証審査会」での厳正な審査を経て、『認証』を授与、認証については、安心・安全の証として、購入や導入を検討する事業所への信頼へとつながる

【お問い合わせ】

- (事務局)
- 公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会
- 介護・生活支援ロボット普及推進協議会 事務局
- 〒231-0023
- 横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階
- TEL 045-662-9538 FAX 045-671-0295

(担当)

加藤 email katot@kanafuku.jp

得永 email tokunagam@kanafuku.jp